

短 報

聖路加看護大学 2011 年度改訂カリキュラム

麻原きよみ¹⁾ 有森 直子²⁾ 大森 純子¹⁾ 佐居 由美³⁾ 外崎 明子⁴⁾
 廣瀬 清人⁵⁾ 飯岡由紀子⁶⁾ 松谷美和子⁷⁾ 小野 智美⁸⁾ 梶井 文子⁹⁾
 瀬戸屋 希¹⁰⁾ 長松 康子¹¹⁾ 中村 綾子¹²⁾

FY2011 Curriculum Revision at St Luke's College of Nursing

Kiyomi ASAHARA, PHN, PhD¹⁾ Naoko ARIMORI, CNM, DNSc²⁾ Junko OMORI, PHN, PhD¹⁾
 Yumi SAKYO, RN, MN³⁾ Akiko TONOSAKI, RN, PhD⁴⁾ Kiyoto HIROSE, PhD⁵⁾
 Yukiko IIOKA, RN, PhD⁶⁾ Miwako MATSUTANI, RN, PhD⁷⁾ Satomi ONO, RN, PhD⁸⁾
 Fumiko KAJII, RN, PhD⁹⁾ Nozomi SETOYA, RN, PhD¹⁰⁾
 Yasuko NAGAMATSU, RN, MPH¹¹⁾ Ayako NAKAMURA, RN, MN¹²⁾

〔Abstract〕

This paper describes the process of developing a revised curriculum at St. Luke's College of Nursing and the new contents. The former curriculum revised in FY 1995 had been evaluated and issues were noted. Therefore, a working group was organized and it initiated a new curriculum development in 2007. A further revision was begun in April 2011.

A revised curriculum FY 2011 is designed to meet the educational objectives which evolve from the philosophy and vision of this college to prepare nurses who are not only proficient and knowledgeable in the arts and science of nursing practice, but who are also caring well-rounded individuals. One of the main characteristics of this revised curriculum is to incorporate the concept of "People-Centered Care" (PCC). PCC was the outcome of the research project supported by a grant for 21st Century COE program from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Japan. PCC was incorporated into the conceptual framework of this curriculum. In the FY 2011 revised curriculum, liberal arts and the foundations of nursing were enriched. In the clinical nursing courses the contents of nursing practice were systematized and enriched. With the new curriculum all students qualify to take the registered nurse examination, but the number of students who get a public health nurse license are limited. Respondents evaluating the revised curriculum found it understandable. We changed the course names so that students could more easily understand the contents. Most importantly, the clinical courses were renamed to identify the specialty area of the course.

〔Key words〕 curriculum development, nursing, education, baccalaureate

-
- 1) 聖路加看護大学 地域看護学 St. Luke's College of Nursing, Community Health Nursing
 - 2) 聖路加看護大学 助産学母性看護学 St. Luke's College of Nursing, Maternal Infant Nursing & Midwifery
 - 3) 聖路加看護大学 基礎看護学 St. Luke's College of Nursing, Fundamentals of Nursing
 - 4) 国立看護大学校 成人看護学 National College of Nursing, Japan, Adult Nursing
 - 5) 聖路加看護大学 心理学 St. Luke's College of Nursing, Psychology
 - 6) 聖路加看護大学 成人看護学 (慢性期看護学) St. Luke's College of Nursing, Adult Nursing (Chronic Illness and Conditions Nursing)
 - 7) 聖路加看護大学 看護教育学 St. Luke's College of Nursing, Nursing Education
 - 8) 聖路加看護大学 小児看護学 St. Luke's College of Nursing, Child Nursing
 - 9) 聖路加看護大学 老年看護学 St. Luke's College of Nursing, Gerontological Nursing
 - 10) 前聖路加看護大学 精神看護学 Former St. Luke's College of Nursing, Psychiatric & Mental-Health Nursing
 - 11) 聖路加看護大学 国際看護学 St. Luke's College of Nursing, International Nursing
 - 12) 聖路加看護大学 看護管理学 St. Luke's College of Nursing, Nursing Administration

2011年11月9日 受理

〔要旨〕

本稿では、2011 年度改訂カリキュラムの作成過程と概要を報告する。1995 年度改訂カリキュラムは総括評価において、いくつかの問題点が明らかとなったため、2007 年度からカリキュラム改訂のためのワーキンググループを立ち上げて検討した。

2011 年度改訂カリキュラムは本学の理念とビジョンに基づくものである。また、4つの概念とその関係性を基盤とした 1995 年度改訂カリキュラムの枠組みに、本学が文部科学省 COE プログラムとして取り組んだ People-Centered Care の概念を取り入れたことに大きな特徴がある。2011 年度改訂カリキュラムは教養科目と基礎科目の充実を図るとともに、専門科目については、臨地実習の充実を図り、保健師の国家試験受験資格にかかわる教育を選択制とした。科目名称については、科目内容のわかるものとし、専門科目は専門性が明確となるものとした。

〔キーワードズ〕 カリキュラム開発, 看護学, 教育, 学士

I. はじめに

聖路加看護大学 1995 年度改訂カリキュラムは、看護学を構成する人間、健康、環境、看護の 4つの概念とその関係性を枠組みとし、成長発達と健康レベルの 2軸から組み立てて科目を設定し、当時としては斬新的なカリキュラムであった¹⁾。その後、このカリキュラムは随時実施された評価から、必要な改訂が行われてきたが、10年目の評価においていくつかの課題が明らかになってきた。そこで、現状のカリキュラムの課題への対応、および本学が 2003～2007 年度にかけて文部科学省から研究助成を受けて行った 21 世紀 COE プログラム²⁾の成果として明らかとなった「People-Centered Care (PCC)」概念のカリキュラムへの反映を検討し、将来に向けた社会および看護実践のあり方や学生の状況を考慮したカリキュラムを作成することとなった。検討の結果、2010 年度に改訂カリキュラムがまとまり、2011 年度入学生より教育を開始したので、その経緯とカリキュラムの内容を報告する。

ここでは、カリキュラムを正規の授業として組まれる科目名およびその内容と科目配置とする¹⁾。

II. カリキュラム改訂の経緯

1995 年度改訂カリキュラムの 10 年目の総括評価において、慢性期看護論や急性期看護論等の複数の看護領域で構成された科目では、知識の順序性や連続性を維持することが難しいこと、小児看護、老年看護、精神看護など各々の領域が目指す看護の方向性や専門性を伝えることが難しくなること、そのことによって教員の満足度が低下したり負担感が増すこと、さらに科目の順序性の混乱や単位数変更の要望などの問題が示された。そこで、2005 年 11 月のカリキュラム運用委員会において、カリキュラムを検討する組織を編成し、見直しを行うことが

決まった。最初の試みとして、新カリキュラム原案を学内で公募し、3 件の応募があった。2007 年 4 月のカリキュラム運用委員会では、ワーキンググループとしてカリキュラム検討委員会を組織することを決め、メンバーとして菱沼典子(教務部長)、有森直子(母性看護・助産学)、廣瀬清人(教養)、外崎明子(成人看護学)、佐居由美(基礎看護学)、大森純子(地域看護学)を選出し、12 月をめどに応募案を含めて検討し、改訂案をまとめることとなった。しかし、応募された原案はいずれもアウトラインを示すもので改訂案作成に至らず、また 1995 年改訂カリキュラムの共通理解に時間が費やされ、2007 年度のカリキュラム検討委員会ではカリキュラム改訂に向けた実質的検討に至らなかった。

2008 年 4 月から、カリキュラム検討委員会は「カリキュラム 2010」と名称を変更し、麻原きよみ(教務部長)と松谷美和子(看護教育学)、飯岡由紀子(外崎明子氏後任)がメンバーに加わり、2010 年度入学生から実施をめざすカリキュラムを検討することになった。カリキュラム改訂にあたっては、教職員全員が検討に参画するように、カリキュラム運用委員会で進捗状況を報告して承認を得ながら進めるとともに、FD 研修会や FS ミーティング(教職員会議)においてコンセンサスを得ながら進めることとした。

2008 年度は、カリキュラム 2010 の会議を 12 回開催し、FD 研修会および FS ミーティングにおいて、現行カリキュラムの問題点および改訂カリキュラムへの要望等の意見の採集を行った。主な意見として、生涯発達看護論、急性期看護論など成長発達と健康レベルに焦点を当てて設置した科目が看護専門領域の寄せ集めになり科目認定者が全体を把握できていない、科目名称がわかりにくい、科目の不足や順序性変更の要望など具体的な意見が出された。これらの会議を通して、改訂カリキュラムが小規模な改訂をめざすのか、理念から見直す大規模な改訂をめざすのか教員間で合意が得られていないこと

が明らかとなった。そこで、カリキュラム運用委員会でもカリキュラム改訂の方向性について再検討し、教育理念や卒業生の特性の大枠は踏襲しながら改訂することとなり、2011年度入学生からの実施をめざすことになった。

それを受けてワーキンググループ（カリキュラム2010）は、卒業生の特性を見直し特性を象徴的に表すキーワードを確認したうえで、2011年度改訂カリキュラムでめざす卒業生の特性が明確になるように検討し、具体的な説明を加えた（表1）。また、大学のビジョン（組織理念）を確認し、改訂カリキュラムに反映することとした。

2009年度のワーキンググループは「カリキュラム2011」と名称変更し、メンバーは、昨年までのメンバーに小野智美（小児看護学）、梶井文子（老年看護学）、瀬戸屋希（精神看護学）が加わり、臨地実習担当全領域が網羅された12名で構成され、11回の定例会議および6回の臨時会議を開催した。2009年度は、カリキュラム改訂の進行と教員の積極的参画を促進するために、議事録は全専門領域に配信され専門領域ごとに検討して案を出し、カリキュラム2011で共有、全体の調整を行い、その結果をまた領域で検討・提案することを繰り返しながら具体的に進めていった。この方法は、とりわけ科目の構成および内容について、当該領域の教員の意図が反映され熟慮された提案につながり、最終的な科目設定に結びつくなど有効であった。

2009年度は、専門科目構成のための軸の検討、科目の設定、科目内容に卒業生の特性が反映されているかの確認、カリキュラム2011の特徴の確認、本学が取り組んだCOEプログラム²⁾の主要概念であるPCCとその考え

方を改訂カリキュラムに取り入れるかについて検討を重ねた。また、全教職員対象にカリキュラム2011の進捗状況を報告して内容を共有し、ディスカッションする機会を設けた。その中でPCC概念を改訂カリキュラムに取り入れることに同意が得られた。PCC概念をカリキュラムに導入するに当たっては、本学のCOEプログラムの研究枠組みであるCommunity-Based Participatory Research (CBPR)の研究者で、COEプログラムについて本学に継続してコンサルテーションを提供してくれたワシントン大学のNoel Chrisman博士の指導、助言を受け、PCC関連科目の設定の検討、PCC概念が科目内容に反映されているかの確認を行った。

2010年度は、長松康子（国際看護学）、中村綾子（看護管理学）を加え全専門領域からなるメンバーで、8回の定例会議および7回の臨時会議を開催した。また、カリキュラム2011の説明と意見交換、会議の結果をカリキュラムに反映するために、カリキュラム運用委員会の定例会議と臨時会議に3回メンバーが出席した。さらにFSミーティングにおいて、全教職員にカリキュラム2011を説明し、意見交換を行った。指定規則との整合性、科目の学年配置のバランスと時間割展開の実現可能性の確認を行い、2010年5月に2011年度改訂カリキュラム案が教授会に提案され審議の上、理事会を経て決定された。その後、改訂カリキュラムにおける臨地実習期間や実習レベル目標、保健師国家試験受験資格取得に関わる必修科目の設定など、カリキュラム運用上の検討をカリキュラム運用委員会およびカリキュラム2011で継続して行った。

表1 聖路加看護大学学生の卒業時の特性

<p>1. 人間愛の精神に基づき、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感をもって接することができる態度を持つ。 人間愛の心を養い、人と社会を深く理解することをとおして良き変革をもたらすことのできる能力を自己の中に育んでいる。この基本となる人間愛を、自校教育、キリスト教的ヒューマニズム、および学生生活を通して育んでいる。</p> <p>2. 自己を見つめ、生涯にわたって自己の人間形成をはかりつつ、自律的に行動する態度を持つ。 自立した責任のある社会人になろうとするアイデンティティを育み、看護専門職者としての基盤となる徳と品格を自己の中に涵養している。自己洞察を深めながら、自分の役割を認識し責任を果たすことのできる能力、人々の権利を擁護する能力、人々と協調する能力、既存の看護の技では為しえない問題に対し創造性をもって対応できる能力を持つ。また、自己の職能開発のためのキャリアプランを持つ。</p> <p>3. 事象への関心を深め、幅広く学問を探究し、批判的思考力を持つ。 幅広く学問に親しみ、さまざまな事象を多方面から分析し、論理的かつ批判的に吟味できる能力を持つ。</p> <p>4. 看護を必要としている個人・家族・地域社会を中心として、相互に関係を築きながら、人（人々）の状況に応じて系統的に看護を実践できる基本的知識と技術および態度を持つ。</p> <p>5. 看護職の一員としてリーダーシップを発揮し、責務を遂行する能力を持つ。 人々の健康な生活と安寧のために必要な保健医療福祉の実現に必要な資源の知識をもち、必要性に応じて資源を生み出す能力、人々と協働することのできる能力の必要性を認識する。また、組織の特性、グループダイナミックス、リーダーシップについて理解し、必要な看護ケアの実践のためにリーダーシップを発揮できる能力を持つ。</p> <p>6. 日本および国際社会における看護の機能と役割を広い視野で多面的にとらえ、保健医療・福祉システムの中で責任を担う姿勢を持つ。 情報の共有、技術開発等による社会全般のグローバル化が進み人々の移動と交流が活発化する社会にあって、保健医療福祉の公共的側面、公平性の視点、経済的視点、政策的視点などの多様な側面から看護に関わる現象を理解し、看護の方向性を見出すことの必要性が認識できる。また、国内外のさまざまな状況で必要とされる看護の機能に対応できる基本的な看護実践能力を持つ。</p> <p>7. 看護の専門職性および看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つ。 自分の関心、特質などから、自らの将来に向けた具体的な専門職能開発の方向性を見出すことができる。また、根拠に基づく看護実践のための基本となる情報収集力、分析力、統合力を身につけ、必要に応じて根拠を創り出す研究に着手するための基本的能力を持つ。</p>

Ⅲ. 2011 年度改訂カリキュラム

改訂カリキュラムは、「キリスト教精神に基づき、より豊かな知性と感性を共に追及し、看護専門職者として成長することを目的とする」本学の理念、および「広い基礎学問に基づいた柔軟で創造的な実践力を持ち、相手を尊重し品格のある態度を身につけ、看護をリードし、未来の社会を支え、よりよいものとする『21世紀型市民』として社会に貢献する人材を育成する」大学のビジョンを基盤とした。

4つの概念とその関係性に基づく看護学カリキュラムの枠組みにPCCの概念を取り入れたことは本改訂カリキュラムの大きな特徴の一つである。また、卒業生の特性を具体化し、リーダーシップや国際性などをより反映するカリキュラムとした。カリキュラムの科目構成と内容については、教養科目と基礎科目の充実、健康レベルを軸とした科目構成を廃し専門性を明確化した専門科目の構成、内容のわかる科目名称、臨地実習の充実、保健師の国家試験受験資格にかかわる教育を選択制とした。卒業要件は、教養科目28単位以上、基礎科目32単位以上、専門科目68単位以上の計128単位以上を取得することとした。

1. カリキュラムの枠組みと主要概念

人間と環境の相互作用によって、さまざまな健康状態が生じる。人間が環境と相互作用しながらよりよいその人らしい生活を送るために、その人にとっての健康状態を最適化するのが看護である。その看護について、1995年度改訂カリキュラムでは、「人間と環境に働きかけ、最適健康状態を生み出すように援助する働き」とした。2011年度改訂カリキュラムではCOEプログラムのPCCの考え方を取り入れ、看護は一方的に人間と環境に働きかけるものではなく、相互に影響し合うものと捉え、看護を「人間と環境との相互作用により、最適な健康状態

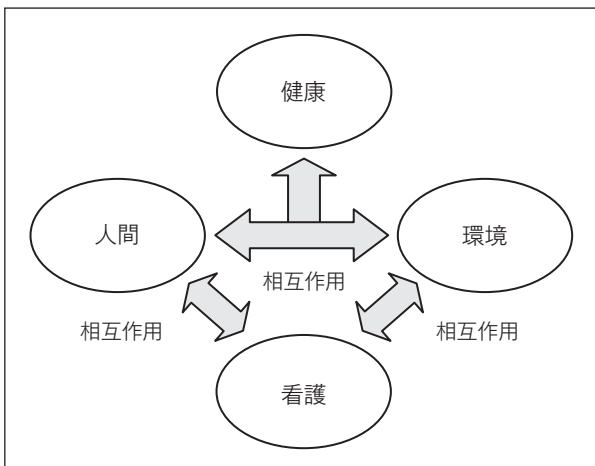


図1 概念間の関係

表2 2011 年度改訂カリキュラムの主要概念

看護
看護は、人間と環境との相互作用により創出される活動である
看護は、人間の健康と生活に焦点を当てる
看護は、生活を営む人間とそれらを取り巻く環境を対象とする
看護は、個人・家族・集団・地域・国・国際社会を対象とする
看護は、対象がもつ能力を最大限に発揮し、最適健康状態を生み出すことをめざす
看護は、系統的思考のもとに根拠に基づく専門的知識・技法を用いる
看護は、生命の尊厳を重んじ、人間の権利を尊重する
人間
人間は、生物・心理・社会・文化・霊的側面をもつ統合された存在である
どのような状況においても、人間としての権利と尊厳が保たなければならない
人間は、固有の経験をもつ存在である
人間は、潜在的に能力をもつ自律した存在である
人間は、成長・発達を続けるとともに死にゆく存在である
人間は、環境と常に相互作用しながら生活している
環境
環境とは、人間と直接・間接に相互作用するものである
環境には、社会文化的環境と自然的環境がある
環境は、健康に影響する要因であり、健康の資源でもある
健康
健康には、身体的、心理的、社会的、霊的な側面がある
健康は、力動的・流動的である
健康は、人間と環境の相互作用から生み出される
健康は、よりよくその人らしい生活を送るための資源である
最適健康状態とは、その人にとって最も良好である状態をいう

を生み出すことをめざす働き」とした（図1）。

表2は、今後も継続した検討が必要ではあるが、改訂カリキュラム作成段階でおおよその合意が得られた主要概念の定義を示したものである。この枠組みに基づいて、教養科目、基礎科目、専門科目を構成した（表3）。

2. 科目の内容と配置

1) 教養科目

「人間と文化」「人間と社会」「人間と言語」「人間と情報」「人間と自然環境」「体育」「総合科目」の7分野で科目を配列したことは1995年度改訂カリキュラムと変わらない。2011年度改訂カリキュラムでは、本学理念の「豊かな知性と感性の追求による人間形成」と大学ビジョンの「広い基礎学問に基づいた柔軟で創造的な実践力を持ち、相手を尊重し品格のある態度を身につけた21世紀型市民の育成」のために教養科目の充実をめざした。教養科目の開講学年を拡大し順序性を考慮した。語学に関して、英語は選択科目を集約して少人数制とし、日本人とネイティブスピーカーの連携により基礎力をつける科目構成とした。さらに、本学の歴史から人間愛の

表3 科目と配置

授業科目		単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	2		✓							
		キリスト教倫理	2		✓							
		音楽	2	✓		✓						
		美術	2	✓		✓						
		文学	2	✓		✓						
		哲学	2		✓							
		倫理学	2		✓		✓					
		宗教学	2			✓		✓				
		人間と社会	歴史学	2	✓		✓					
			法学(日本国憲法)	2		✓		✓				
	教育原理		2	✓								
	教育方法の研究		2		✓		✓					
	教育課程論		2								✓	
	社会学		2	✓								
	心理学		2	✓								
	教育制度論		2				✓					
	カウンセリング概論		2				✓					
	教職概論		2				✓					
	人間と言語	国語表現法	2				✓					
		英語Ⅰ	2		✓	✓						
英語Ⅱ		2				✓	✓					
英語表現法Ⅰ-S		1		✓	✓							
英語表現法Ⅰ-W		1		✓	✓							
英語表現法Ⅱ-S		1				✓	✓					
英語表現法Ⅱ-W		1				✓	✓					
選択英語Ⅰ		1			✓		✓					
選択英語Ⅱ		1				✓		✓				
選択英語Ⅲ		1					✓		✓			
情報と人間と自然環境	海外語学演習	2	✓		✓		✓		✓			
	ドイツ語Ⅰ	2	✓	✓								
	ドイツ語Ⅱ	2			✓	✓						
	中国語	2	✓	✓	✓	✓						
	情報処理演習	2		✓	✓							
	基礎統計学	2		✓								
	統計学演習	2								✓		
	生物学	2		✓								
	物理学	2	✓									
	化学	2	✓									
総合科目	体育Ⅰ	1	✓	✓								
	体育Ⅱ	1	✓		✓		✓		✓			
	総合科目Ⅰ(対人関係論)	2		✓								
	総合科目Ⅱ(健康科学)	2		✓		✓						
	総合科目Ⅲ(ボランティア活動学習)	2	✓		✓	✓						
	総合科目Ⅳ(自校学習)	1	✓									
	総合科目Ⅴ(国際交流演習)	1			✓		✓		✓			
	基礎科目	人間と健康	生涯発達論(小児)	2		✓						
			生涯発達論(成人・老年)	2		✓						
			形態機能学	3	✓							
形態機能学演習			2		✓							
生化学			2	✓								
栄養学			1		✓							
病態生理学			1		✓							
疾病・治療各論			3			✓						
メンタルヘルスと家族			2			✓						
集団力動論			1					✓				
環境と健康		セクシュアルヘルス	2				✓					
		生命倫理	1					✓				
		薬理学	2			✓						
		感染症学	2		✓							
		公衆衛生学・疫学	2				✓					
		健康社会学	1					✓				
		保健医療福祉行政論	3			✓						
		保健統計学	2						✓			
		専門科目	看護の基本	看護学概論	2		✓					
				PCC概論	2		✓					
看護展開論	2					✓						
ヘルスアセスメント方法論	2					✓						
基礎看護技術論	3					✓	✓					
看護提供システム	2							✓				
小児看護学(基礎)	2					✓	✓					
小児看護学(実践方法)	2							✓				
小児看護学演習	1								✓			
周産期看護学(基礎)	1						✓					
看護実践	周産期看護学(実践方法)		2						✓			
	成人看護学(基礎)		1			✓						
	成人看護学(急性期実践方法)		3					✓				
	成人看護学(慢性期実践方法)		3						✓			
	老年看護学(基礎)		1			✓						
	老年看護学(急性期実践方法)		1				✓					
	老年看護学(慢性期実践方法)		2					✓				
	精神看護学(基礎)		1				✓					
	精神看護学(実践方法)		2					✓				
	地域・在宅看護学		2				✓					
臨地実習	公衆衛生看護学(基礎)		2						✓			
	公衆衛生看護学(実践方法)		2							✓		
	学校保健		2					✓				
	養護概説		2							✓		
	学校救急活動論		1							✓		
	教職実践演習(養護教諭)		2							✓		
	国際看護学		1		✓							
	コミュニケーション実習		1		✓							
	基礎看護技術実習		1					✓				
	看護展開論実習		1					✓				
看護学統合	小児看護学実習		2						✓			
	周産期看護学実習		2						✓			
	成人看護学実習(急性期)		2						✓			
	成人看護学実習(慢性期)		2						✓			
	老年看護学実習		3						✓			
	精神看護学実習		2						✓			
	地域・在宅看護学実習		2						✓			
	総合実習		2							✓		
	公衆衛生看護学実習Ⅰ		2							✓		
	養護実習Ⅰ		3							✓		
保健師免許に関する科目	看護政策論	2							✓			
	ターミナルケア論	2							✓			
	看護研究Ⅰ	2							✓			
	看護研究Ⅱ	3							✓			
	総合看護	3							✓			
	遺伝看護学	1							✓			
	周産期看護・ウィメンズヘルス	1							✓			
	急性・クリティカルケア論	1							✓			
	セルフマネジメントケア論	1							✓			
	看護リーダーシップ	1							✓			
養護教諭一種免許に関する科目	臨床看護総合演習	1							✓			
	看護ゼミナール	1							✓			
	保健師免許に関する科目	2							✓			
	養護実習Ⅱ	2							✓			

精神、自身のアイデンティティを育む機会とするため「自校学習」の科目を新設した。

2) 基礎科目

基礎科目は「人間と健康」「環境と健康」の2分野で構成されること、および各分野の考え方は1995年度改訂カリキュラムと同じである。基礎科目は、内容を整理して科目を設定し、「生涯発達論(小児)」「生涯発達論(成人・老年)」「病態生理学」「メンタルヘルスと家族」「薬理学」「感染症学」「公衆衛生学・疫学」と内容がわかる科目名称とした。また、健康を社会構造との関連性から捉えることの重要性から「健康社会学」を新設し、選択科目として「保健統計学」を新設した。

3) 専門科目

専門科目は、「看護の基本」「看護実践」「臨地実習」「看護学統合」の4分野とした。「看護の基本」を構成する科目に「People-Centered Care 概論」を新設し、「看護展開論」「ヘルスアセスメント方法論」「基礎看護技術論」「看護提供システム」と教授内容のわかる科目名称とした。

「看護実践」は、小児看護学、周産期看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学と各看護実践領域の科目で構成し、専門性がわかり、大学院の専門分野と整合した科目名称および内容とした。各専門領域の科目は、「小児看護学(基礎)」「小児看護学(実践方法)」のように基礎と実践方法の内容を含む科目で統一し、成人看護学と老年看護学は、「成人看護学(急性期実践方法)」「成人看護学(慢性期実践方法)」のように実践方法を急性期と慢性期に分けて科目を設定した。また、卒業生の特性の一つに挙げられる「国際社会における看護の機能」を具体化する科目として「国際看護学」を新設した。

「臨地実習」は、構成する科目内容を充実し、専門性がわかる科目名称とした。基礎看護学実習は、今まで講義科目の一部として臨地で展開されてきた演習内容を実習科目としてきちんと位置づけ、「コミュニケーション実習」「基礎看護技術実習」「看護展開論実習」を設置した。成人看護学実習は急性期と慢性期に分けて各2単位設定し、超高齢社会のわが国においてとりわけ看護の対象として接することの多い老年期の人々を対象とした老年看護学実習は1単位増やして3単位とした。

「看護学統合」は、看護観を深め、看護専門職として生涯学んでいく方向性を見出すための分野であることは、1995年度改訂カリキュラムと同じである。他の分野と同様に「周産期看護・ウィメンズヘルス」「急性・クリティカルケア論」「セルフマネジメントケア論」など内容のわかる名称とした。また、医療の高度化に伴い重要性の認識が高まっている「遺伝看護学」、および卒業後の看護実践能力につなげるための「臨床看護総合演

習」を新設した。さらに、「看護職の一員としてリーダーシップを発揮する」という卒業生の特性、および「看護をリードする人材の育成」という大学ビジョンを具体化する科目として、1995年度改訂カリキュラムの「看護提供システムⅡ」を「看護リーダーシップ」に名称変更した。

保健師国家試験受験資格と養護教諭一種免許取得に関わる教育は選択制とし、保健師国家試験受験資格取得に関わる科目として「法学(日本国憲法)」「体育Ⅰ」「体育Ⅱ」「保健統計学」「国際看護学」「公衆衛生看護学実践方法」「学校保健」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を必修科目とした。実習に関しては保健師国家試験受験資格取得を希望した学生のみが履修するが、他の科目は保健師国家試験受験資格取得を希望しない学生も履修できるようにした。同様に、養護教諭一種免許取得に関する必修科目についても、「教職実践演習(養護教諭)」「養護実習Ⅰ」「養護実習Ⅱ」以外は養護教諭一種免許取得を希望しない学生も履修可能である。

IV. おわりに

2011年度改訂カリキュラムの作成は、1995年度改訂カリキュラムの意図を再確認し、教員間で絶えず新カリキュラムの方向性を確認しながら進められた過程であり、教員間で認識や目的を共有するしくみづくりの過程であったと思う。

2011年度改訂カリキュラムを開始して半期が経過した。今後、数年間は新旧カリキュラムが同時進行する。それぞれのカリキュラムで教育を受ける学生が混乱しないよう、また改訂カリキュラムへの移行が円滑に進むようカリキュラムの運用には十分配慮して進めていく必要がある。今後は、学生と教員からの継続したカリキュラム評価を行う必要がある。

最後に、カリキュラム改訂のための検討に参加し、前向きに取り組んでくれた全教職員の皆様に謝意を表したい。

引用文献

- 1) 菱沼典子・小山真理子・小島操子他. (1996). 聖路加看護大学 1995 年度改訂カリキュラムについて. 聖路加看護大学紀要, 22, 113-121.
- 2) 聖路加看護大学. (2008). 聖路加看護大学 21 世紀 COE プログラム 市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点 研究成果最終報告書. SLCN@rchive. <http://arch.slcn.ac.jp/dspace/bitstream/10285/2446/2/0808-final.pdf>. [2011/11/08]